

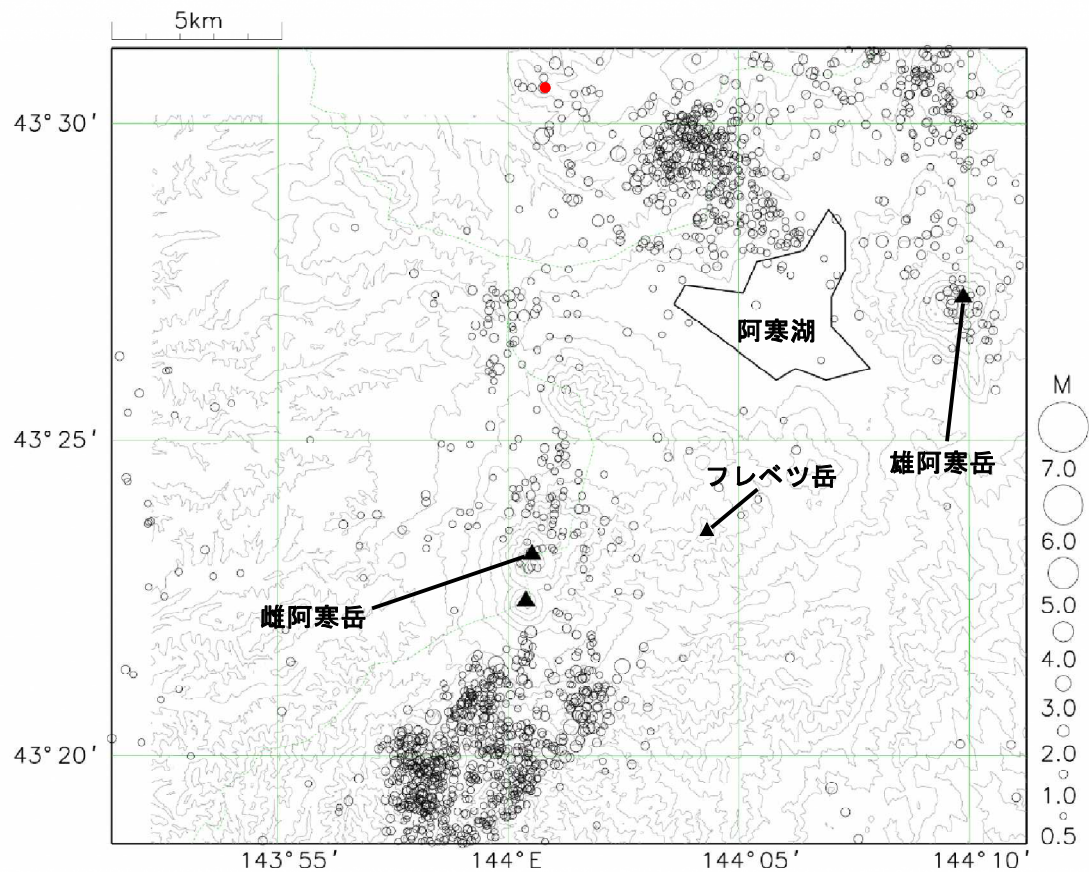


図11 雌阿寒岳 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
(1997年10月1日～2020年6月30日、マグニチュード ≥ 0.5 、深さ30km以浅)
2019年7月以降に震度1以上を観測した地震を赤いシンボルで表示しています。

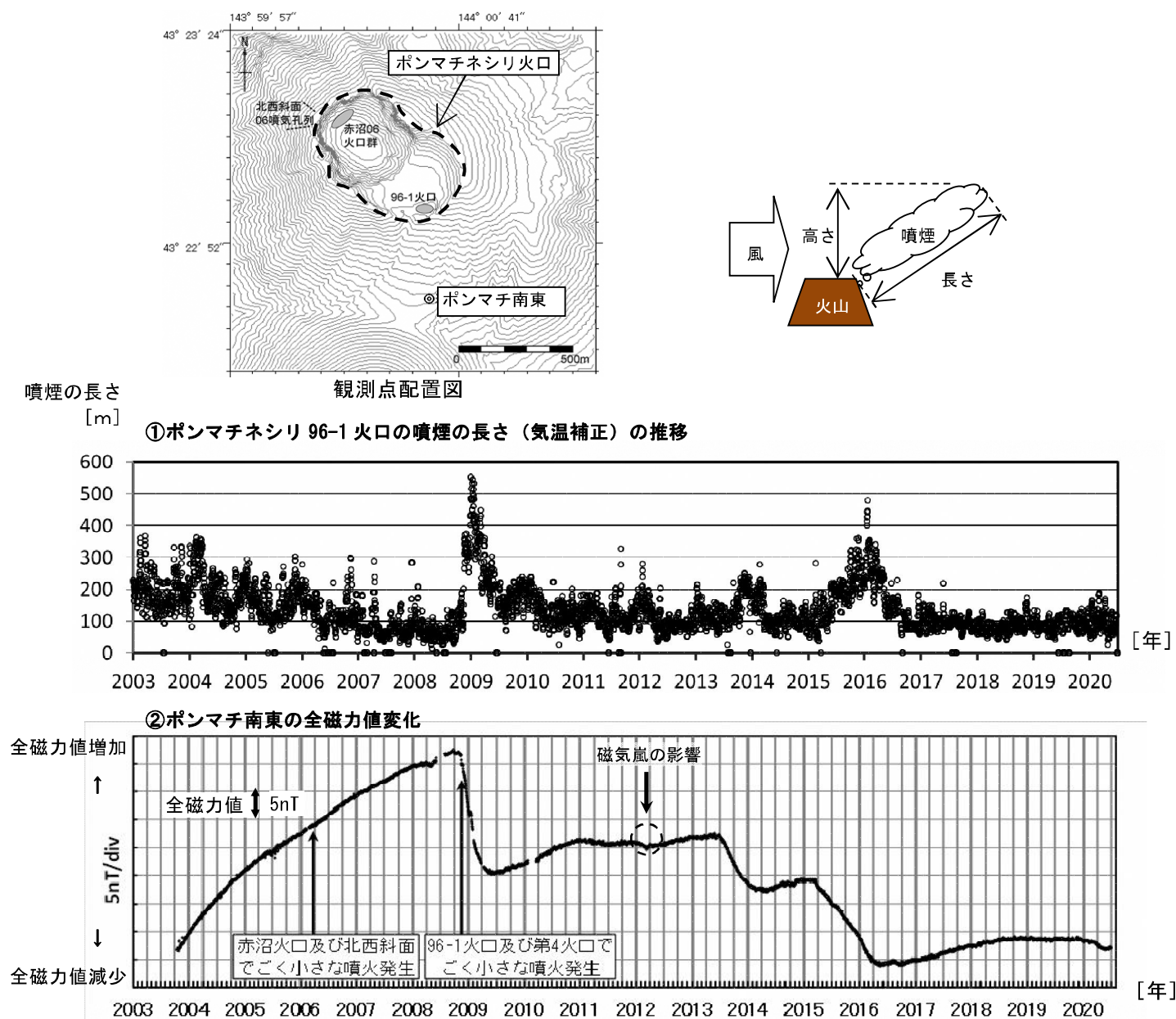


図12 雌阿寒岳 ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移及び全磁力観測点配置図

① : ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移（2003年1月1日～2020年6月30日）

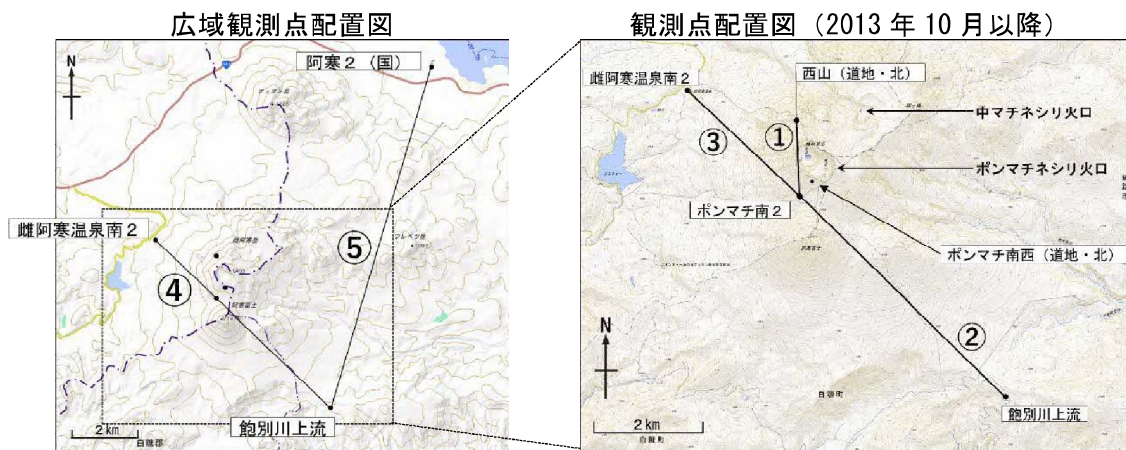
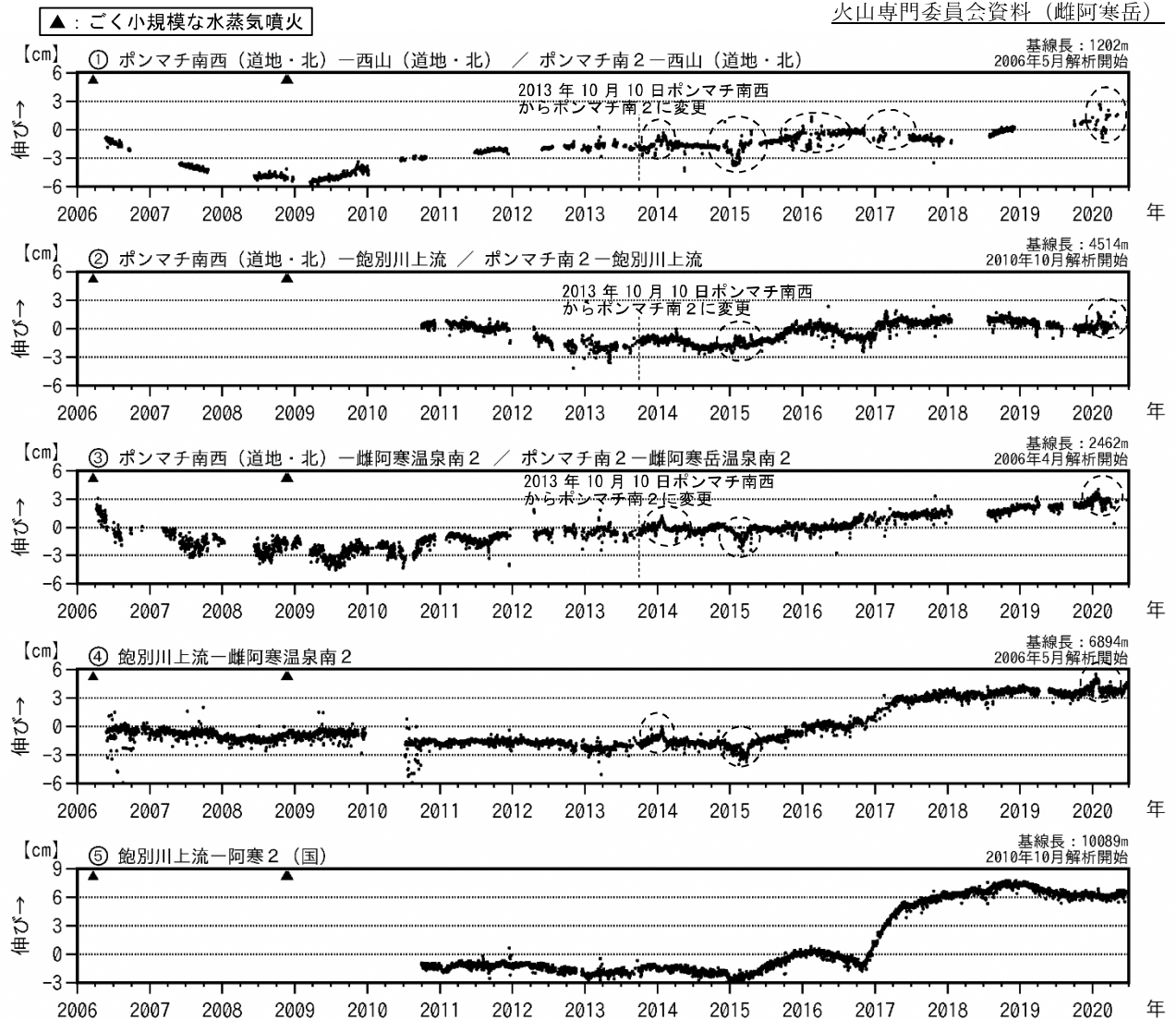
噴煙の長さは、火山活動に関わらず、気温の影響を受けて気温が低い時に長く、気温が高い時に短く観測される傾向があるため、気温の影響が小さくなるよう補正した値を用いています。

② : ポンマチ南東観測点（観測点配置図◎）の全磁力値変化（2003年10月16日～2020年6月30日）

グラフには、ポンマチ南東観測点と女満別観測施設との全磁力差を用いています。

空白部分は欠測期間を示します。

- ・ 2016年5月以降、噴煙量は低い状態が続いています。
- ・ 96-1 火口南側で実施している全磁力連続観測によると、全磁力は 2018 年 8 月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2020 年 4 月から 5 月頃にかけてわずかな減少がみられました。



（国）：国土地理院 （北）：北海道大学
（道地）：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図13 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2020年6月）及び観測点配置図

基線の空白部分は欠測を示します。

点線円の変動は凍上や積雪の影響による変化を示します。

2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

・2016年10月下旬以降、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動が観測されていましたが、2019年夏頃から停滞していると考えられます。

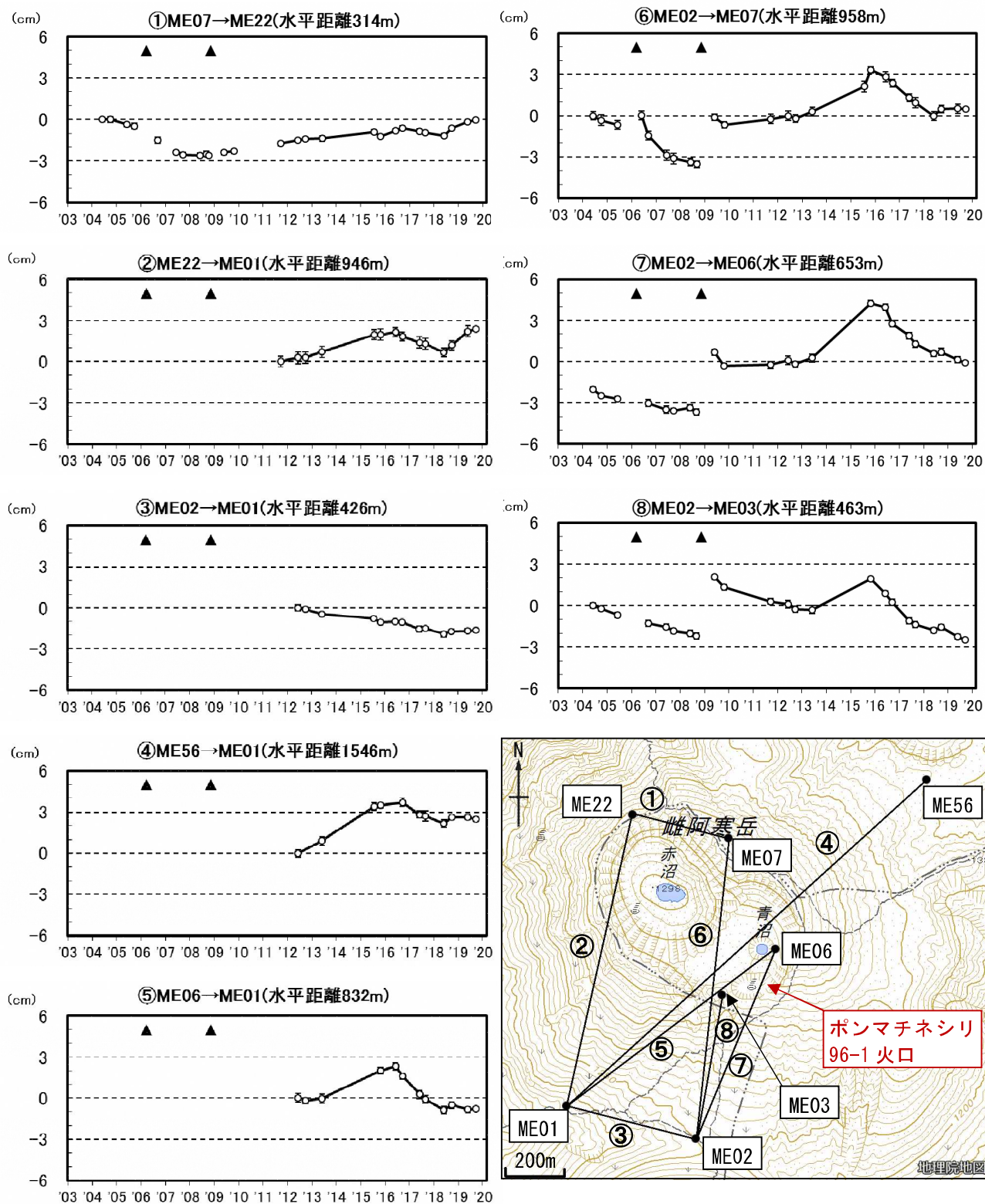


図14 雌阿寒岳 GNSS繰り返し観測によるポンマチネシリ火口付近の水平距離変化及び観測点配置
(2003年7月～2019年10月)

GNSS基線①～⑧は観測点配置図の①～⑧に対応しています。

図中の▲は2006年3月及び2008年11月のごく小規模な水蒸気噴火を示します。

- ・ 赤沼火口付近の①、②の基線では、2018年から伸びの変化がみられます。
- ・ ③～⑥の基線では、2016年からみられていた縮みの変化が停滞しています。

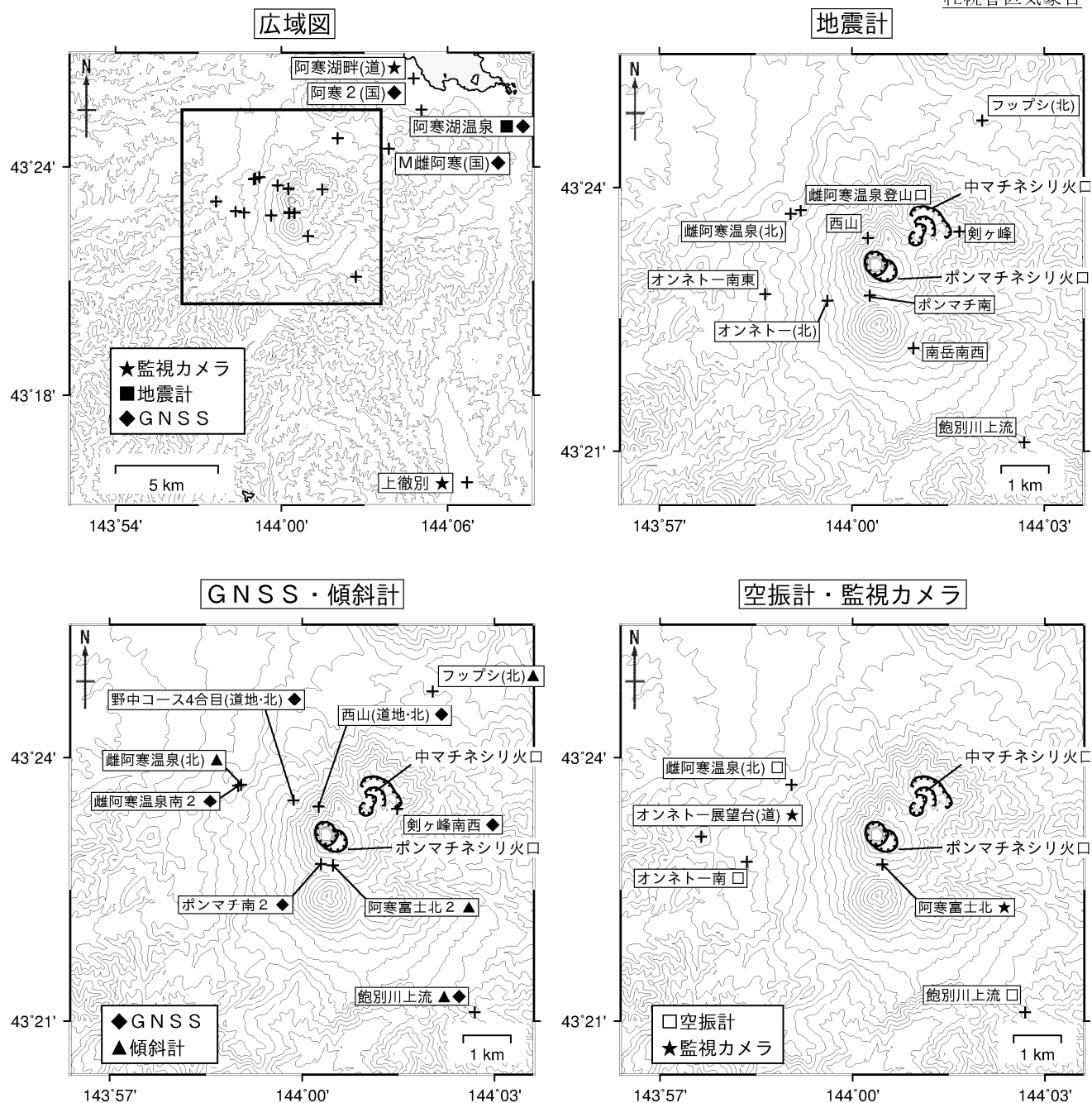


図15 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の□で示した領域を拡大したものです。

＋印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(北) : 北海道大学

(道) : 北海道

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所